

内閣府（防災担当）主催「防災とボランティアのつどい」

志ある若者の支援活動を支える取組

ー令和6年能登半島地震を契機にー

国立研究開発法人防災科学技術研究所
社会防災研究領域 防災情報研究部門 特別研究員
一般社団法人BOSAI Edulab 理事長
上田 啓瑚（かみだ けいご）

自己紹介



かみだ けいご

上田 啓瑚



筑波大学
University of Tsukuba



慶應義塾
Keio University



静岡大学
Shizuoka University

出身地:三重県津市

静岡大学地域創造学環 地域環境・防災コース卒

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程

筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラム

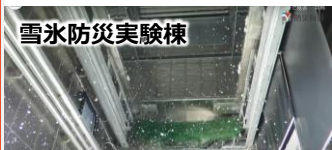
国立研究開発法人防災科学技術研究所社会防災研究領域総合防災情報センター

文部科学省科学技術教育アドバイザー/内閣府防災TEAM防災ジャパンお世話係

一般社団法人BOSAI Edulab理事長

趣味:書道、手話、ソフトテニス

主な拠点



雪氷防災実験棟



雪氷防災研究センター
新庄雪氷環境実験所
(山形県新庄市)
1969.10



雪氷防災研究センター
(新潟県長岡市) 1964.12



大型降雨実験施設



防災科学技術研究所
(茨城県つくば市) 1963.4(1978.4)



兵庫耐震工学研究センター
(兵庫県三木市) 2004.10



E-ディフェンス
(実大三次元震動破壊実験施設)

生きる、を支える科学技術

SCIENCE FOR RESILIENCE

地震、津波、噴火、暴風、豪雨、豪雪、洪水、地すべり。
自然の脅威はなくなる。

でも、災害はなくすことができると、
私たち防災科研は信じています。
この国を未来へ、持続可能な社会へと導くために。
防災科学技術を発展させることで
私たちは人々の命と暮らしを支えています。

さあ、一秒でも早い予測を。一分でも早い避難を。
一日でも早い回復を。



防災科研

ISUT (災害時情報集約支援チーム:内閣府と防災科研の協働)として石川県庁へ

2024年

- 1/1 16:10 M7.6 最大震度7の地震発生
- 1/1 16:12 情報統合版オンライン参集及び防災クロスビュー、ISUT-SITEの構築開始
- 1/1 16:49 ISUT派遣決定
- 1/1 18:33 防災クロスビュー公開
- 1/1 18:41 ISUT-SITE公開
- 1/1 19:40 ISUT8号館出発、防衛省(市ヶ谷)から自衛隊 へリで現地移動
- 1/1 23:35 ISUT石川県庁到着。現地対応開始
- 2/1 遠隔支援に移行
- 4/1 遠隔・訪問支援からオンデマンド支援に移行





大学発ベンチャーとして静岡大学・藤井基貴研究室と慶應義塾大学・大木聖子研究室の学生を中心に設立された一般社団法人。防災教育に関する研究の蓄積をもとに、新たな防災教育の提案・普及と防災活動に貢献できる人材の育成に取り組む。設立年度：2022年。



慶應大学SFC
防災社会デザイン研究室

理事長：上田 啓瑚



令和元年東日本台風（台風第19号）でのジレンマ



🏠 > 北陸発

【能登半島地震】人手不足が復旧の壁 ボランティア受け入れ まだ1万4000人

2024年4月3日 05時05分 (4月3日 10時02分更新)



[トップ](#) > [社会](#) > [災害・気象](#) > [記事](#)

[2024/02/13 06:18]



テレ朝ニュース（2024年2月13日）「能登半島地震 ボランティア人手不足が深刻」

🔒 有料記事 ≡ 能登半島地震
土井良典 上田真由美 樫村伸哉 2024年5月2日 5時00分



朝日新聞（2024年5月2日）「ボランティア「控えて」→「足りない」GW、能登地震被災地に続々」

全国に存在する学生団体



全国の志のある 学生の存在

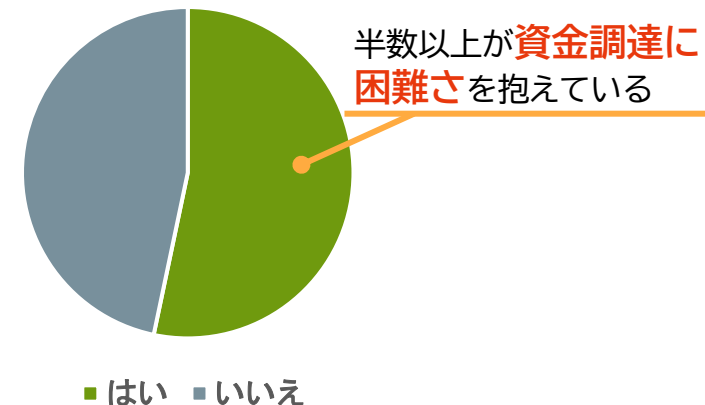
全国で災害ボランティア活動
をする学生団体は存在

全国16の防災活動を行う学生団体に調査を実施
2021年12月～2022年1月
調査実施協力: 静岡大学学生防災ネットワーク
全国学生防災ネットワーク

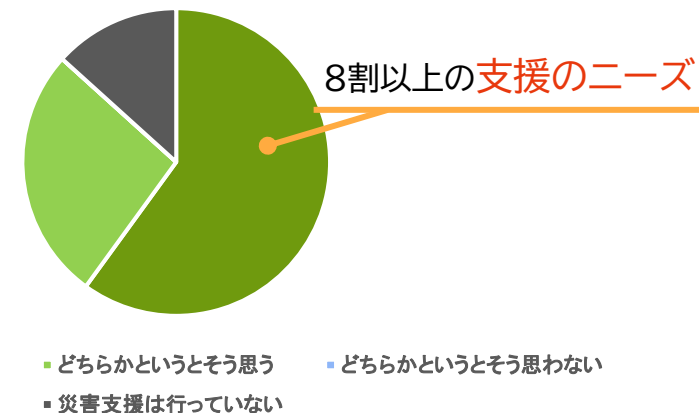


全国学生防災ネットワークWebサイト「全国学生防災団体マップ」

災害ボランティアをする際に活動資金の調達に困難さを感じた
ことがあるか
N=16



災害支援を行う学生団体に緊急支援を行う助成が
あれば活用したいか
N=16



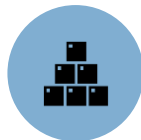
学びの場・ベースの要望

- ・ 学生ボランティアの勉強会があるとよいかと思います。ボランティアや学生団体自身も正確な知識を身につけられているか不明なのと、申請などの情報は知らないと行動に移せないものだと思っていて、知識共有の支援があると嬉しいです。
- ・ 団体での災害ボランティア派遣のノウハウが全くないため、経験のある団体からレクチャーなどしてもらえる機会があればサークルとしても積極的に派遣を検討できると思います。
- ・ 東日本大震災の際のGINGA-netや九州豪雨のときのうきはベースのような、学生が集まって基地になれるような場所

ボランティア活動に参加したいけど・・・



作業服等



資材



宿泊費



レンタカー代



交通費



レスキューストックヤード「水害ボランティア作業マニュアル」

事業概要

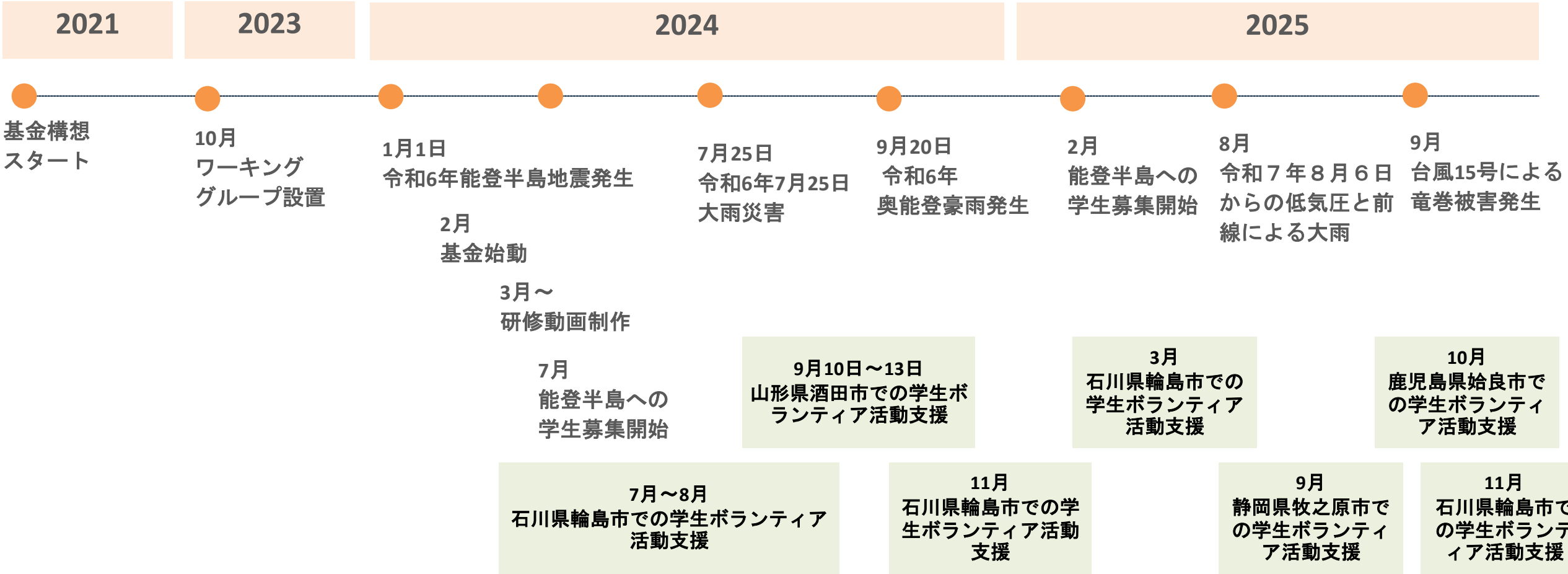


4 質の高い教育を
みんなに

11 住み続けられる
まちづくりを

13 気候変動に
具体的な対策を

基金のこれまで



基金の取組概要

01 募集

災害ボランティアへの参加を希望する学生を募集



02 教育

災害やボランティアなどの知識・ノウハウを学ぶ



03 マッチング

学生の希望と適正などをもとに、受け入れ先を決定



04 現地活動支援

過去の経験をもとに現地でのボランティア活動を支援



05 報告

現地での活動内容や学んだことなどを報告



06 交流会

ボランティアに参加した学生が世代・分野・学校を超えて交流



参加条件と各種補助

参加条件

- ・18 歳以上の大学生、専門学生、大学院生
- ・事前学習(オンデマンド動画 15 分 ×8 講座)を事前視聴
- ・ボランティア保険に加入
- ・携行品の準備



主な補助

■宿泊・移動

- ・宿泊費無料、活動場所への送迎
- ・往復交通費実費補助（上限 3 万円）※場所により変動あり

■装備品

- ・ヘルメット
- ・軍手
- ・インソール
- ・ビブス など



■事前動画研修

- ・8名の専門家によるボランティアに関する事前研修の無償提供

講師一覧

はじめて災害ボランティアに参加する学生も、事前に知識をつけることで安心して活動に参加できるよう、
防災および災害ボランティアのエキスパート8名による事前動画研修を無償提供



15分の動画 × 8講座を視聴
検定テスト(各5問)
→ **災害ボランティアソシエイト認定**



これまでの活動場所



令和6年能登半島地震・豪雨：
輪島市災害たすけあいセンター



令和6年7月25日大雨災害：
山形県酒田市災害ボランティアセンター



令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨：
鹿児島県始良市災害ボランティアセンター



令和7年台風15号：
牧之原市災害ボランティアセンター
牧之原市福祉こども部



令和6年能登半島地震・豪雨 活動期間

2024年7月から2025年11月にかけて、大学生の長期休暇や休日に合わせ、現地と調整の上、以下の日程で募集し活動

2024年 夏

- 7月27日～30日
- 8月8日～11日
- 8月14日～17日
- 8月17日～20日
- 8月20日～23日
- 8月23日～26日
- 8月26日～29日

2024年 秋

- 11月2日～4日
- 11月8日～10日
- 11月22日～24日

2025年 春

- 3月6日～9日
- 3月13日～16日
- 3月20日～23日
- 3月27日～30日

2025年 秋

- 11月1日～3日



ユース災害ボランティア基金

輪島市社会福祉協議会との連携



地域のニーズに応じて



児童クラブで支援活動
キリコ（灯籠）の運搬で
地域の方や子どもと交流

災害ボランティアを通じた学生間交流



これまでの参加実績

応募学校

小樽商科大学、北海道教育大学、宇都宮大学、筑波大学、群馬大学、城西大学、武蔵野大学、横浜市立大学、昭和女子大学、日本大学、東京理科大学、津田塾大学、大妻女子大学、専修大学、慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学、明治大学、成城大学、東京都立国際高等学校、静岡大学、常葉大学、サレジオ学院高等学校、名古屋大学、南山大学、中京大学、高山自動車短期大学、三重大学、和歌山大学、滋賀大学、京都教育大学、大阪公立大学、同志社大学、関西学院大学、関西大学、岡山大学、広島大学、広島修道大学、長崎大学、琉球大学

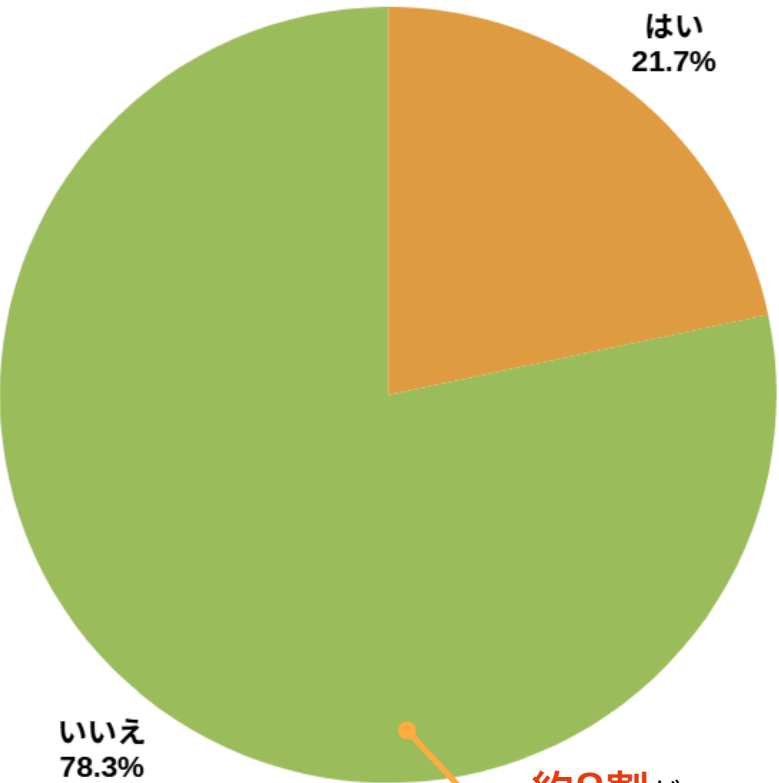
(2025年11月4日現在)

これまでのプログラム参加者

全国の学生 のべ **333** 人

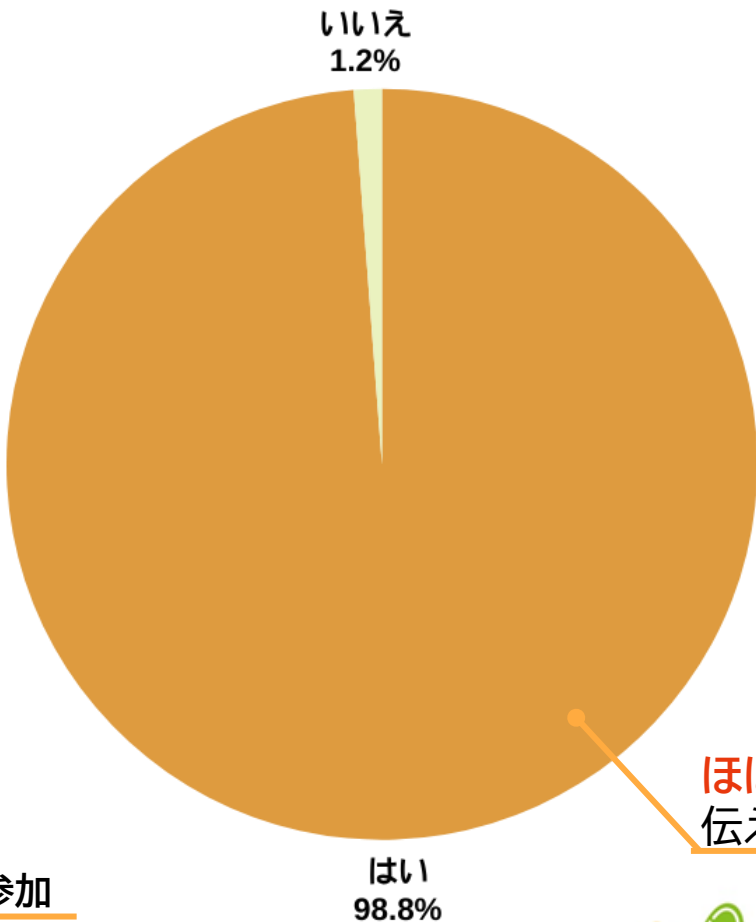
参加者アンケート

災害ボランティア活動経験の有無



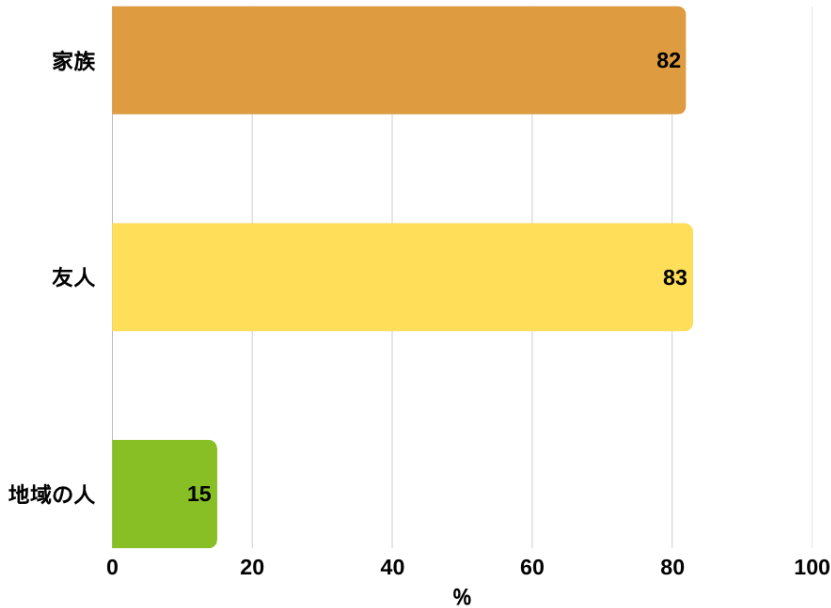
約8割が
災害ボランティア初参加

本プロジェクトに参加して、ボランティア活動や被災地の現状についてどなたかに伝えましたか



ほぼ全ての参加者が
伝える取組

「はい」の方に伺います。どなたに伝えましたか？
(複数選択可)



参加動機



友人と長期休みに何ができるか考えて決めました

かつて被災した時に助けてもらったから



この支援があったので能登に行こうと思いました

大学の授業で現状を知り、動かすにはいられなかった



医師を志しており現場から学びたいと考えたから



ユース災害ボランティア基金

学生による自発的な伝える取組



長崎新聞（2024年11月22日付）「私がみた輪島・能登 長崎大の葛島さんが写真展『被災前の生活 想像して』」



学生交流会で報告する三重大生（本人写真提供）

若者のボランティア活動支援の仕組みづくり:ユース災害ボランティア基金

被災地の一刻もはやい「復旧・復興」のために

被災地に志のある若者を。

学生ボランティアで社会を支える。



協力:



公益財団法人
風に立つライオン基金
THE LION STANDING AGAINST THE WIND FUND FOUNDATION SINCE 2015

認定NPO法人（兵庫県認証第1号NPO法人）



日本災害救援
ボランティアネットワーク
Nippon Volunteer Network Active in Disaster

今後も継続実施予定

防災・被災地支援に関する教育プログラムの提供

継続的に災害ボランティアアソシエーターを認定
各大学にアソシエーション（支部）を構成

学生ボランティアのサポート

全国各地の被災地へ

次世代の防災人材の育成
国土強靱化

今後の課題

- **関わる人**をどう増やすか
- 地域の実態をどう**伝え広げる**か
- 支える取組をどう**持続可能**にするか

